



靖國神社みたままつり
7月13日から16日まで、恒例の靖國神社「みたままつり」が盛大に斎行され、参詣者は延べ三十数万名に及んだという。

今年第68回目を迎えた「みたままつり」は、今や、都心で催される新暦の一大盆祭りとして定着しているが、この「みたままつり」の最大の特色は、老いも若きも世代を超えて、ここ靖國の宮居に集い、今は護國の神となれるた祖父や父、兄弟、戦友たちを偲び、尊い命を捧げて国を守った英霊の御霊を迎えて共に一夜を楽しみ、遺徳を讃え、感謝の誠を捧げるところにある。そして、これは我が国古来の習俗である一大盂蘭盆の行事でもある。境内一

報 特 攻
平成26年8月

第101号

公益財団法人 特攻隊戦没者慰霊顕彰会

〒102-0073 東京都千代田区九段北3-1-1靖國神社遊就館内・地階

電話 03 (5213) 4594
FAX 03 (5213) 4596

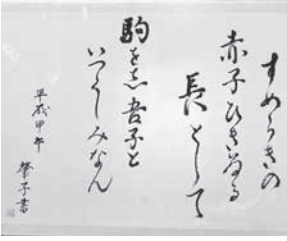
http://www.tokkotai.or.jp
振替口座 00140-6-59580

編集人 飯田正能
発行人 羽淵徹也
印刷所 ヨシダ印刷株式会社

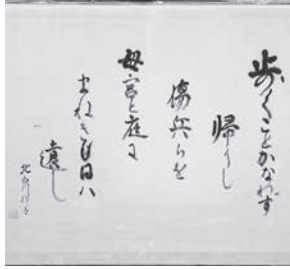
目次

靖國神社みたままつり	1
第60回知覧特攻基地戦没者慰霊祭に参列して	6
知覧特攻基地戦没者慰霊祭参加所見	8
徳之島と特攻	10
第47回「戦艦大和を旗艦とする特攻艦隊戦没将士慰霊祭」に参列して	13
第23回「昭和の日記念祭・秋田県特別攻撃隊招魂祭」に参列して	15
殉國沖繩学徒顕彰六拾九年祭・聖徳太子と十七条憲法	17
その背景・内政と外交	21
【学生提言】沖繩の大学生として憲法を考える	25
沖繩県石垣島に第八飛行師団誠第十七戦隊長「伊舎堂用久中佐と隊員の顕彰碑」建立される	28
京都霊山護國神社平成26年度「あ、特攻勇士之像」慰霊祭に参列して	32
第47回豫科練戦没者慰霊祭に参列して	33
平成26年度第48回特攻殉國の碑慰霊祭に参列して	34
当顕彰会会員の資質向上のための施策の紹介①	35
新刊図書紹介	
①清武英利著「同期の桜は唄わせない」	38
②吉本貞昭著「知られざる日本国憲法の正体」	40
③丸谷元人著「日本の南洋戦略―南太平洋で始まった新たなる(戦争)の行方」	40
事務局からのお知らせ	43
事務局からの報告等	43

面を照らす大小3万余の献灯や懸け雪洞は、精霊の迎え火と送り火になぞらえたものであろうか。「我が国古来の習俗」がそこに表されている。
13日は、靖國神社「みたままつり」の前夜祭の日である。



左 島津肇子様



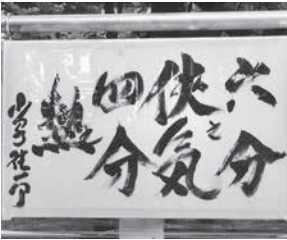
右 北白川祥子様献燈



左 坂田藤十郎氏



右 扇千景会長献燈



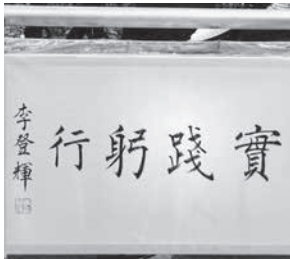
左 小泉純一郎元首相



右 中條高德会長献燈



左 DeVey・スカルノ大統領夫人



右 李登輝元台湾總統献燈

○献燈 (懸け雪洞)

- ・元皇族・皇太后女官長北白川祥子様
- ・「歩くことかなわす帰りし傷兵らを 母宮と庭にまねきし日は遠し」
- ・元皇族・崇敬者総代 島津 肇子様
- ・「すめらぎの赤子ひきあふる長として 駒をし吾子といつくしみなん」
- ・靖國神社崇敬奉賛会会長 永久王御詠
- ・「人生は美であり愛である」 扇 千景様
- ・重要無形文化財保持者(人間国宝) 歌舞伎俳優 坂田藤十郎様
- ・「藝」
- ・英霊にこたえる会会長 中條 高德様
- ・「八紘一字」 小泉純一郎様
- ・元内閣総理大臣 横綱 「夢」
- ・「六分之俠気 四分之熱」
- ・元台湾總統 「實踐躬行」
- ・李 登 輝様
- ・「實踐躬行」 スカルノ元インドネシア大統領夫人
- ・ DeVey・スカルノ様
- ・「真正日本」 ニュージールランド治安判事 神谷 岱助様
- ・「烈風と怒濤なぎたる南洋は 海空もやして英霊静めぬ」
- ・講談師 五代目 一龍齋貞花様
- ・「軍神祭の社に勇み駒」
- ・歌手 「御題 静」
- ・歌手 「ここに幸あり」
- ・女優 「生きて生きて泣いて笑って役者みち」
- ・横綱 白 鵬様
- ・神谷 岱助様
- ・「龍齋貞花様」
- ・「軍神祭の社に勇み駒」
- ・「御題 静」
- ・「ここに幸あり」
- ・女優 「生きて生きて泣いて笑って役者みち」
- ・横綱 白 鵬様
- ・「夢」
- ・「實踐躬行」
- ・李 登 輝様
- ・ DeVey・スカルノ様
- ・「真正日本」
- ・「烈風と怒濤なぎたる南洋は 海空もやして英霊静めぬ」
- ・講談師 五代目 一龍齋貞花様
- ・「軍神祭の社に勇み駒」
- ・歌手 「御題 静」
- ・歌手 「ここに幸あり」
- ・女優 「生きて生きて泣いて笑って役者みち」
- ・横綱 白 鵬様

この時期、東京では例年、梅雨の終わりも近く、激しい雷雨に襲われることも多いのであるが、今年、直前に大雨と強風による災害を日本列島各地にもたらして過ぎ去った台風8号のせいで、台風一過、晴天に恵まれるかと思いきや、初日の13日は朝から雲に覆われ、夕方からは雷雨との予報であった。しかし、幸い予報は外れて、薄曇りの蒸し暑い天気であった。だが、日曜日とあって、家族連れも多く、しかも浴衣姿の男女が目立って多かった。矢張り、何処にでもある日本の夏の風景であろうか。

大鳥居から第二鳥居前にある下乗札までの外苑参道両側には、沢山の屋台が連なり、焼き鳥、焼きそば、焼きとうもろこしなどの香ばしい匂いが漂っている。大村益次郎銅像の周りには、盆踊りの舞台が作られ、浴衣姿や法被姿の人々も大勢見受けられた。外国人も多く、中には、日本人にならって、浴衣姿や法被姿の者も見受けられた。今年取り分け人出が多く、外苑参道は、通り抜けるのに難渋するほどであった。恐らく10万人を超える人出であろう。

やがて宵の18時、神殿より鳴り響く大太鼓の音を合図に、一斉に点灯された大小約3万個の懸け提灯や懸け雪洞が、境内や参道一面を明るく照らし出して「みたままつり」の前夜祭は始まった。昭和22年7月13日〜16日に、神社の正式行事として斎行されてから今年で満67年、68回目を迎えた。

この「みたままつり」の由来や意義については、当顕彰会会報「特攻」第92号に掲載の東京大学名誉教授小堀桂一郎博士著「靖国神社と日本人」(平成10年8月・PHP新書)や靖国神社社報「やすくに」第624号(平成19年7月1日)掲載の京都産業大学所功教授の論稿「みたま祭の来歴と意義」に詳しいが、今年、遊就館内に掲げら

暑中お見舞い
申し上げます

公益財団法人 偕行社

理事長 志摩 篤

副理事長 塩田 章

副理事長 戸塚 新

副理事長 深山 明敏

専務理事 白石 一郎

事務局長 若木 利博

公益財団法人 水交會

會長 藤田 幸生

理事長 齊藤 隆

副理事長 田内 浩

専務理事 赤星 慶治

事務局長 本多 宏隆

公益財団法人

大東亜戦争全戦没者
慰霊団体協議會

會長 島村 宜伸

理事長 柚木 文夫

専務理事 圓藤 春喜

事務局長 岩田 司朗

航空自衛隊退職者団体
つばさ會

會長 遠竹 郁夫

副會長 杉山 弘

副會長 山本 修三

副會長 吉田 正

副會長 藤川 壽夫

専務理事 菊川 忠繼

副専務理事 長島 修照

公益財団法人

特攻隊戦没者
慰霊顕彰會

理事長 杉山 蕃

副理事長 藤田 幸生

専務理事 衣笠 陽雄

事務局長 羽瀨 徹也

れている「光の祭典『みたままつり』の由来」には、その概要が次のように記載されている。

「みたままつり」の先駆けとなりましたのが、昭和21年7月14・15両日の2夜にわたり、境内の相撲場で催された、長野県遺族連合会主催による奉納地方民謡・盆踊り大会です。

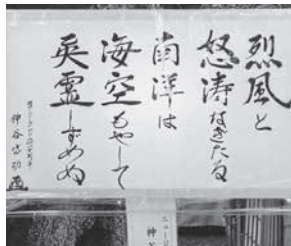
当神社の資料によれば、この催しには3万人を超える参加者で盛況を極め、中には連合軍総司令部バーンズ少佐（14日）、ネルソン少佐（15日）も観覧し、その大会の様子は全国に録音放送された、と記録されています。

当時、この企画に関わった靖國神社の坂本定夫欄宜（故人）は「亡き人々のみたま（神霊）を祀る日本の古俗を、お盆の季節である7月に新生靖國に復活しては」という構想を描き、大東亜戦争末期に『先祖の話』を書いた民族学者の柳田國男氏を訪ねて相談しました。柳田氏は「みたまの慰霊は極めて

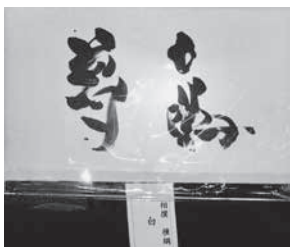
大事なことで、世の平和のためにも大切だ。祭りは『華やかで風流』であるべきだ」と賛意を示された。昭和22年7月13日から4日間にわたり第1回の『みたままつり』が催され、以後恒例となりました。



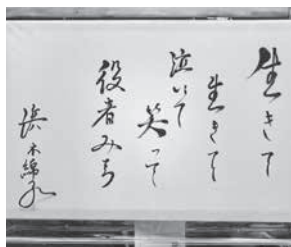
左 講師 一龍齋貞花氏・右 ニュージールランド治安判事 神谷岱助氏献燈

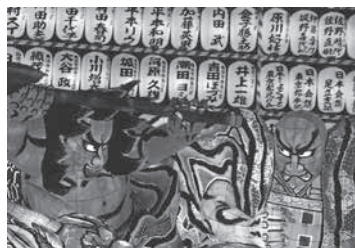


左 歌手 大津美子氏・右 歌手 ベギー葉山氏献燈

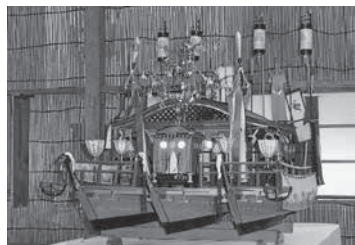


左 横綱 白鵬関・右 女優 浜木綿子氏献燈





青森ねぶた燈籠



宮島管弦船燈籠



江戸風鈴

現在は各界名士による揮毫の懸雪洞かけぼんぼり約300灯をはじめ、ご遺族、戦友、崇敬者等により奉納された大型・小型の提灯約3万灯や全国の有名灯籠が掲げられ、青森ねぶた、地元麹町靖國講・芝濱睦会等による神輿振り、吹奏楽団によるパレードが行われます。外苑の大村益次郎像周辺では連日、盆踊りが、内苑の能楽堂では、日本歌手協会有志や、つのだ・ひろ氏をはじめ有名歌手による奉納公演や日本舞踊、バレエ、奇術等の芸能も催され、その賑々しさは『華やかで風流』な日本一の光の祭典であります」と。

更に靖國神社では、昭和24年7月の第3回「みたまま祭」以来、7月13日夕刻、みたまま祭前夜祭に先立ち、旧招魂斎庭において、大東亜戦争に際し「戦陣に死し職域に殉じ非命に斃れた人々」で、靖國神社に奉斎されざるみたままの慰霊祭けいれいさいを「諸霊祭」と称して執り行うことが慣例となっていた。この「諸霊祭」では、復員局・厚生省から「祭神名票」が送られないため、神社に合祀されていない「軍人・軍属等」のほか、外地や内地で戦災等（空襲・原爆等）により死没した民間の人々もすべて一緒に慰霊することとなった。

一方、政府主催の「全国戦没者追悼式」は、日本遺族会などの早くからの強い要望により、ようやく昭和38年5月の閣議決定を受けて、同年8月15日（停戦公表の日、月遅れの盆）に初めて実施されたが、これは前記靖國神社の「諸霊祭」を含めた「みたまま祭」の延長戦上にあるものと言えよう。

右の閣議決定文には「今次の大戦における全戦没者（軍人・軍属及び準軍属のほか、外地における戦災死没者等をも含む）に対し、国をあげて追悼の誠を捧げる・」とあり、しかも、「宗教的儀式を伴わない」と断りながらも、御臨席の天皇・皇后両陛下に合わせて「全国民が一斉に黙祷するよう勸奨」している。また、昭和39年の第2回追悼式は、靖國神社の境内で行われていた。更に、「終戦二十周年」の第3回追悼式からは、規模を上げて国立の日本武道館で実施されることになったが、その際、正面中央の標柱に「全国戦没者之霊」と明記され、それへの拝礼・献花が今日まで続いている。神道の立場から見れば、この標柱は、全戦没者の神霊が宿る神籬ひもろぎの一種（榊や御柱の類）にほかならない、と所教授は指摘しておられる。更にまた、同教授は、ともあれ、7月の賑やかな「みたまま祭」と8月の厳かな「全国戦没者追悼式」が、これからも共に永く続けられるよう念じてやまない、と述べておられる。全く同感である。このことは、靖國神社に寄せる日本人の誠の心の表れである。

期間中遊就館内は夜9時まで開館されており、折柄特別展「大東亜戦争七十年展Ⅲ」や、過去の、みたままつりに寄せられた「揮毫ぼんぼり展」なども開催され、熱心に鑑賞する参詣者が遅くまで満員の盛況であった。

明くる14日（日）は、夕刻6時から第一夜祭が斎行されたが、その日も、東京は朝から曇天ながら猛暑日となった。拝殿から拝する御本殿の偉容は、ライトアップされいよいよ神々しく、御紋章は金色に輝いていた。時折吹き抜ける風は涼しさを運んで心地良かった。徳川康久宮司以下大勢の神官が御奉仕する諸神儀を終えて、参列者一同御本殿に昇殿して拝礼し、第一夜祭は滞りなく終了した。

その後、当日の最大の奉納芸能祭である、恒例の日本歌手協会有志による歌謡特別公演に向かったが、会場の能楽堂前は千名余の観客で溢れていた。日本歌手協会は、今年設立52周年を迎えたが、設立以来長年にわたり靖國神社みたままつりの奉納歌謡ショーを有志により奉仕してきた。現会長は、昭和20年生まれの歌手田辺靖雄で、懐かしい「新雪」と「夢であいましょう」を歌った。オープニングは、音楽家・合田道人の名司会で、全員が「暁に祈る」を歌い、白根一男が「九段の母」を、民謡の御所原田直之が、得意の民謡・佐渡おけさ入りの「麦と兵隊」と、東日本大震災の被災地でもよく歌ったという「花は咲く」を声量豊かに歌い上げた。昨年は、伊勢神宮と出雲大社の御遷宮が重なる神の年を寿いで「伊勢音頭」と「出雲安来節」が歌われたが、



五月みどり



原田直之



ペギー葉山



ボニージャックス



下谷二三子



あべ静江



フィナーレ (東京五輪音頭)



神職兼歌手 涼恵



司会兼歌手 合田道人

今年も「神の国につぼん伊勢、出雲、ご遷宮から幸せへ」と題して、出雲出身の宇山保夫が「出雲路しぐれ雨」を、芸者歌手の下谷二三子が「伊勢音頭」を、それに、今年初登場の変わり種とも言える神職兼歌手の涼恵が「豊葦原の瑞穂の国を歌い上げた。戦後のヒト曲「銀座カンカン娘」と「みずいろの手紙」を、あべ静江が、「リンゴ追分」

と「人形の家」を弘田三枝子が、「水の色のワルツ」と「この世の花」と「おひまなら来てね」を五月みどりが、「山小舎の灯」と「牧場の朝」をボニージャックスが、それぞれ見事に歌い上げ、司会の合田道人自身も「里の秋(星月夜入り)」を心を込めて歌った。歌手生活61年の超ベテランで、日本歌手協会名誉会長でもあるペギー葉山は、「空

の神兵」と「南国土佐を後にして」(この歌は支那戦線に派遣された四国出身兵士を主体とする鯨部隊「第40師団・善通寺編成・兵团文字符「鯨」」でよく歌われていた土佐の「よさこい節」を原曲とするという)を堂々と歌い上げ、更に、最後に歌った「学生時代」は、懐かしい思い出と共に聴衆もこれに唱和した。フィナーレは、2020年オリンピック東京開催の成功を祈念して、「東京五輪音頭」を聴衆と共に全員で唱和し、2時間近くに及んだ奉納歌謡ショーは幕を閉じた。英霊もさぞ満足されたことであろう。

○鎮霊社例祭(諸霊祭) 靖國神社の拝殿から本殿へ向かう左側の回廊の中程に出入り口の扉があつてその外側の旧招魂斎庭に二つの小社がある。向かつて右の小社を「元宮」といい、左の小社は「鎮霊社」という。この二社とも大樹の下にひっそりと建つており、よく似た造りの小社であるが、「元宮」は瓦葺きで、「鎮霊社」は銅板葺きである。この旧招魂斎庭に入るには、通常、拝殿の左、回廊に連なる玉垣の奥の門からであるが、門扉が開けられているのは午前9時から午後4時までである。

「鎮霊社」は、「明治維新以来の戦争・事変に起因して死没し、靖國神社に合祀されぬ人々の霊を慰める為、昭和四十年七月に建立し萬邦諸国の戦没者も共に鎮齋」されており、例祭日は7月13日である。この「鎮霊社」は、靖國神社の第5代宮司を務められた(昭和21年1月から昭和53年3月死去までの32年間)筑波藤麿氏が、前年の宗教者国際会議に出席し、ヨーロッパ諸国を訪問して帰国された後、各国とも先の大戦で、国際条約無視の無差別爆撃や人種的迫害等により数百万にも上る非戦闘員の犠牲者の霊を弔う祭祀が行われている現状に鑑み、我が国でもそのような祭祀を行う必要性を痛感され、先の大戦での原爆や空襲による死没者を始め、前記のように明治維新以来の戦争・事変により死没し、靖國神社に合祀されない犠牲者、更には我が国民のみならず、万国の戦争犠牲者の霊を弔い、世界の平和を祈願するため、建立されたのが、この「鎮霊社」であり、靖國神社では「元宮」と共に毎日、神官による祭祀が行われており、その例祭が、趣旨を同じくする「みたままつり」の前夜祭の後の宵祭りとして毎年7月13日の午後8時過ぎに行われている。それより先、靖國神社では、昭和24年7月の第3回「みたまま祭」以来、7月13日夕刻、みたまま祭前夜祭に先立ち、旧招魂斎庭において、大東亜戦争に際し「戦陣に死し職域に殉じ非命に斃れ

た人々で、靖國神社に奉斎されざるみたまの慰霊祭」を「諸霊祭」と称して執り行うことが慣例となっていた。こ



鎮霊社

の「諸霊祭」では、復員局・厚生省から「祭神名票」が送られないため、神社に合祀されていない「軍人・軍属等」のほか、外地や内地で戦災等（空襲・原爆等）により死没した民間の人々もすべて一緒に慰霊することになった、とのことであり、「鎮霊社」建立以後は、前記のように同社例祭として齋行されている。

大樹の下、昼なお暗い霊域において、御社の二つの燈明が幽かに揺らぐのみの、暗闇に包まれ、静寂にして幽玄の気が満ちた中での神儀で、筆策の音と共に、白装束の神官6名によって奉仕され、修祓、降神、献饌、祝詞奏上等が齋行される。参列者は、宮司以下遺族代表他十数名に過ぎない。

なお、鎮霊社に関連して「英霊の志を報告いたします。

一 慰霊祭の概要

今年の慰霊祭は、60回目という節目の年であるためか、慰霊祭参列者は、過去最大の約1200名という多数に上った。特に全国から約300名という多数の御遺族の参列が目立った。

例年どおり、慰霊祭は、鹿屋の海上自衛隊の対潜哨戒機による慰霊飛行、国防駐屯地音楽隊の演奏の後、定刻に

継承する会」の会長宇井豊氏（陸士59期）は、同会会報「八紘一字」第13号（平成26年3月15日発行）に「安倍首相の靖國神社と鎮霊社参拝」について、概略次のように述べておられる。「昨年末安倍晋三総理大臣が、靖國神社と共に鎮霊社に参拝戴いたこと、まことに有り難うございました。現在の日本の状況を嘆き悲しみ、また腹立たしく思われておられたであろう英霊は、天皇陛下と共に、必ずや首相の決断を喜ばれ、感謝されていることと思います。

鎮霊社は、昭和四十年に、当時の第五代宮司筑波藤磨様（元皇族・山階宮藤磨王）が創建されましたが、一部に反対意見もあり、元宮と共に密かに祀られて来ました。天照大神の大御心であり建国の精神である八紘一字（世界

開始された。

開式の言葉の後、献茶、参列者一同拝礼、黙祷、読経と続き、霜出知覧特攻慰霊顕彰会長を始めとして来賓等による焼香が行われたが、特に御遺族全員の焼香は、人数の多さで周囲を圧倒していた。読経後、霜出会長が「．．．特攻で散華された1036勇士の御霊

に対し、衷心より哀悼の誠を捧げる。特攻勇士の御霊たちが、身を擲って国難に殉じたことすら忘れ去られようと

平和」と、例え敵であっても崇敬する日本古来の美風のもと、世界中のあらゆる戦没者を敵味方なく祀る鎮霊社を建立されたことは、私も理解し、心から賛成であります。

平成五年、第七代大野俊康宮司「八紘一字」第12号の拙稿参照）に対して、私は、生き残った吾々の死後を祀る「祖霊社」の創建と、鎮霊社の一般公開を訴え続けてきました。次代湯澤宮司は、毎年七月十三日夜八時三十分から行われる鎮霊社例祭に十名のみ参加を許され、平成九年から今日まで参加させて戴いております。南部宮司になり、一般にも公開されるようになりまして．．．と。（飯田 正能記）

第60回知覧特攻基地戦没者慰霊祭に参列して

専務理事 衣笠 陽雄

平成26年5月3日（土）、知覧特攻平和観音堂前で執り行われた、知覧特攻慰霊顕彰会（会長・南九州市長霜出勤平氏）主催の「第60回知覧特攻基地戦没者慰霊祭」に、当顕彰会代表として参列しましたので、その概要と所見

している今日、我が国は経済大国にまで成長し、平和と繁栄が築き上げられてきたが、その幸福を考える時、御霊たちの尊い犠牲と御加護の賜物であることを一日も忘れることはできない。世代は変わろうとも戦没勇士の崇高な精神を顕彰し、史実を正しく後世に伝え、平和の尊さ、命の大切さ、家族と親子の絆を、知覧特攻平和会館を通じ、平和情報の発信基地としての役割を果たしつつ、御霊たちが国の安泰を念じ

つつ散華された御心に応えていくことを誓う。ここ平和会館では、数多くの遺品が展示・保存され、その活用にも努めており、全国から訪れる、これからの日本を背負う若い世代の平和学習の場として活用されている。南九州市としても特攻戦没者の慰霊顕彰事業は今後も責務として継承していく所存であるので、御安心を・・・との追悼の言葉が述べられた。続いて代表者による慰霊の言葉が述べられたが、特に遺族代表の、特攻隊員の兄との最後の別れの場の思い出話には聞く者の涙を誘った。その後少飛会、特操会、偕行会の各代表の言葉があった。

引き続き、詩吟朗詠錦城会による献詠が行われた。今年も散華された3名の特攻隊員の辞世の歌が名調子で披露され、参列者に深い感銘を与えた。

次いで、慰霊電報披露、献花、献奏、南九州市長挨拶、全参列者による慰霊斉唱、閉会の言葉で慰霊祭は滞りなく終了した。

二 参加所見

1 慰霊祭について

戦没者の慰霊祭の主役は、何と言っても、御霊に直接関係する御遺族であるが、今回は全国から約300名という多くの御遺族が参加された。高齢で

これが最後だからという声も聞こえたが、焼香・献花状況を見ると、超高齢の人はばかりではない。私は世代交代が確実に進んで、特攻隊員の意思が伝承されている証と感じたが、特攻隊員の御遺族は特殊で、隊員の大多数は独身であり、現在既に父母は亡く、兄弟姉妹、叔父叔母等も高齢となって、意思を継ぐ者は、甥、姪が主体となりつつある。しかし、川床氏も言われるように「本当に甥や姪が引き継いでくれるのか、どうか」分らない。また、「遺族とは？」の問題もある。我が顕彰会の慰霊祭においても、「この人が遺族？」というような「遺族」も見られるのである。

いずれ直近の御遺族は姿を消すのであるが、「遺族とは？」等の問題はいずれ顕在化してくるのである。当然ながら、血縁はなくても、英霊の意思を純粹に引き継ぎ、伝承できる人が中心になつてもらいたいと思う。勿論、政治的、あるいは営利等、野心のある者は不適当である。今の慰霊祭では、御遺族がおられるからこそ、精神的に中立でいられるのだと思う。このようなことを考えると、若い人の中から特攻隊の精神や、慰霊祭を引き継いでもらう人材を今から育てておくことが極めて大事だと思う。

2 知覧特攻平和会館について

今回は比較的時間の余裕があったので、展示品をゆっくり見学し、超多忙な語り部の川床氏からも有意義な話を伺うことができた。氏の話では、当日の会館入場者は5千名くらいではないかということであった。連休のせいもあるが、館内は満員御礼状態だし、映像会場なども直ぐに席が埋まる状況であった。ゆっくり見学するには、連休等を外した平日の方がよいとのことであった。

遺書等の展示は以前と変わらないように見えたが、遺品・遺書等の収集を集めるよう努力しているとのことであり、まだ眠っている遺品がどこかにあるという確信と行動力が、この資料収集を積極的にする原動力となつているように思われた。遺族との連絡、

面会、手紙のやり取り等により、説明に誤りのないよう、できるだけ正確な史実を把握、確認して語り部の説明内容としていくことで、そのような努力が、聞く人の心の琴線を揺さぶる内容となつていくように感じた。

会館は、所有する遺書等のユネスコ世界記憶遺産登録を推進している。登録されれば、世界に日本人の精神を知らせることができるし、真筆遺書等の長期保存が可能となる利点がある一

方、「知覧だけの登録」には、他の保有する施設等との軋轢を生ずる問題も考えられ、今後登録されたとしても、これらとの調整・説明が必要と思われる。

主催者の追悼の言葉の中で、霜出市長はこの会館を、「全国から訪れる、これからの日本を背負う若い世代の平和学習の場として活用・・・」と述べているが、川床氏は、ここは年間、全国から修学旅行で、約700校もが訪れているという。その内約300校が九州の小学校だそうである。高校は、東京の私学が多く、また、学生の質の問題等もあり、平和教育というよりも心の教育面を期待する先生もいるようである。殆どの生徒は真面目で真剣に話を聞いているとのことであった。

高校・中学生の所見を見たが、本当に立派なものを残している。知覧は正に、歴史・精神教育の国民的学校のようであるが、最近、説明は、時間、対象によつて歴史背景を削除し、事実だけを述べるといった内容に変えているようである。会館の思うようにやれば良いのではないかと思うが、これだけ有名になり、影響力が拡大し、また、市という公共機関が指導しているという誤解等も生じたり、マスコミに注目されたりで、展示要領や語り部の説明も大変だなと感じた。